

2021.1.30

KT セミナー in 京都

こ う か め い さ い

光華明彩

わが国最初の正史『日本書紀』によると、天照大御神はお生まれになった時、

ひかりうるわしく あめつち
「光華明彩、六合の内に照り徹らせり」と称えられ、

この上なく輝かしい存在として、

また、神々の世界を治める日の神としても伝えられています。

(神宮ホームページより)

2021年1月、京都にて“KTセミナー”が開催されました

上記は、T先生を中心として、その場で行われたエネルギーワークの一つである、

“光華明彩”と書かれた、お札を使ったワークの中で

自身の“ハートと魂”の中心で感じた、莫大なエネルギーのイメージを描いたものです

それは、K(根源太陽母神)を核とした、

T(根源父神)と、その子供達(KK、根源家族)による、根源の三位一体パワーであり

限りなく、強く、美しく、“根源の愛の光”の大核融合！！！！

そのようにしか、表現出来ません^^

地響きがして、地震では？と思う程、体がグラグラと揺れる感覚、地球との一体感

自己の中心から、∞宇宙へと広がっていく、莫大な愛(太陽)の炎、

そこから飛び散る、無数の火柱、日(火)の子達。。

大きな体感を伴う、エネルギーワークでした

その日の私は「みんな集まれ～」で、根源と地上セルフの間にある

全ての次元のポータルとなる事を、強く意図していて、その願いは、たった一つ！

あらゆる全ての存在が、根源の母の元(究極の愛の源)へと、帰ることが出来ますように…でした

それは、NMC(新マクロ宇宙)の核心であり、

その雛形としてある新しい地球の、まさに“光華明彩”、この上なく眩しく、美しい“新太陽”

宇宙一の輝きを放つ、“**根源の究極の愛の太陽**”です^^



皇室の御祖神であり、日本人の大御祖神とされる“天照大御神”は、

日本の地に、六合(天と地と四方、世界)全てを照らす、“愛の光”として誕生し

今、根源と地球をつなぐ宇宙の中心軸(縦軸)と、高次の様々なネットワーク(横軸)を結ぶ

十全(十合)の核となり、全宇宙をあまねく照らす“**根源天照皇太神**”として

私達日戸の中心“ハートと魂”から、燦然と輝きはじめた！

KTセミナーは、その“根源の光のイニシエーション”の場、であつたのではないのでしょうか？

「お札は、飾っておいても仕方がない、by KT」←※超重要(笑)^^

世界では、これまで常識とされてきた価値観がひっくり返る程の、様々な動きが生まれていて
フリーエネルギーや、進化した地球外生命体(宇宙人)の存在が公表される等
長い間地上で続いた、一部の富裕層による搾取の時代から、平和と平等の時代へと
大転換が成されようとしている事を感じます(地球維神、ミロクの世の創生)

これまで固く信じてきた事が否定された時、たとえそれが間違っていた、とわかったとしても
人は、大きな混乱に陥ってしまうのではないのでしょうか？ 外界の事物は、もう何も信じられない…
拠り所としていたものがなくなり、生きる方向性を見失ってしまうからです

そうやって初めて、意識は自己の内側へと向き、**私達の本質＝“愛”**が見えてくるのだと思います

周りの大切な人を信じる事、愛する事、その為に必要なものなど、何もありません

否、それ以上に強いもの、尊いものはない、と思います

私にとって愛は、「他を思いやる優しい心」というのが、もっともシックリくる感じがしますが
それは自身の内側(ハートと魂)から、自然に湧き上がってくる思いであり

全ての生命が、もともとはたった一つであった愛の源

＝“究極の母性”(根源の母神)から生まれた事を、教えてくれているのだと思います

永遠の自己(魂)にとっての、懐かしい故郷の記憶です^^

愛とは生命の源、宇宙のはじまりからある、最も偉大な、万物“創造の力”です

そして、愛は他の為だけにあるのではなく、喜びや感動、希望といった、自身にとっての

生きる意欲の源泉、命そのものでもあります

どれほど社会が進化し、豊かになったとしても、その豊かさを感じる力、愛がなければ
ただ虚しいだけであり、永続はありません

私達は根源の愛を、より深く学ぶため、思い出すために、懸命に地上で生きてきた——
それ以外の、何があったでしょう

一人一人が、愛の太陽として輝き、命が響き合う大地こそが、

NMCの雛型たる新しい地球“ミロクの世”、“地上天国”と言えるのではないのでしょうか

今回の京都出陣?!は、月が道連れ? ^^

まだ薄暗い早朝、清らかで、美しい月の光に包まれながら、駅へと車を走らせました

京都へと向かう列車の中で、ウトウトしながら窓の外に目をやると、ここは何処?!

この世とは思えない、光輝く世界が広がっていて、一瞬で目が覚めました

そっかー、琵琶湖だ!!

琵琶湖は、“根源の光の水”から全てが生み出される、地球の子宮とされ、
母なる根源の光を湛えた、“地上の故郷”とも言える、愛と光の聖域なのだと思います
母が手招きしている。。。自己の中心から太陽へと続く、真っ白な光(光子)の道を感じます



自然とは、自分の外側に、誰もが同じように見ている光景と思っていましたが
個々の“魂”というプロジェクターが、内なる思いを映し出す、
壮大なスクリーンでもあるのかもしれない^^

本日、何故か来なければならない気がした、太秦“広隆寺”です



正面に見えてきたのは、“上宮王院太子殿(本堂)”

広隆寺の本尊として、奥には秘仏とされる、“聖徳太子立像”が安置されています



聖徳太子は、自身の産土神(天照大神と共に)でもあり

2015年の夏、黄櫨染御袍こうろぜんのごぼう(天皇御即位の時の装束)をまとった姿で現れた
私にとってはものすごく不思議な、異次元の、偉大なる、愛と光のヒーロー?!です^^
今回、そのお姿は見えませんが。。

広隆寺は“寺”であり、幼い頃(前生?)に慣れ親しんだ、懐かしい仏様の世界
この度の京都は、朝見送ってくれた“月”、そして“仏界”がキーワード?に思えてきました^^



仏像が安置されている“(新)霊宝殿”です

ここから先は撮影禁止となっていて、中は洞窟のように薄暗く、別世界に来てしまった感覚です
国宝、重要文化財を含む50体以上の仏像が、ぐるりと一堂に会する姿は圧巻で
入った瞬間、恐縮…^^;というか、身体がみるみる縮んでいくような気がして
あわてて背筋を伸ばし、深呼吸?!(笑)

中心に祀られているのが、口元に微かな笑みを浮かべた“弥勒菩薩半跏像”です



ウィキペディアより

アルカイツクスマイルとか、ウルトラマンの顔の原型^^とも言われるようです
そう言えば、ウルトラマンは自身にとっての元祖宇宙戦士であり、出身はM78星雲?ではなく
実はもっとスケールの大きな“おとめ座銀河団”の中心にある、M87星雲だったとか?
(「M87にて巨大ブラックホールの撮影に、はじめて成功」(2019.4)との記事をみて以来、何故かとても気になります?)
地上セルフの中にあつた“仏界”という小さな枠が弾け、巨大宇宙空間に重なっていく感じがします

どっしりとした貫禄の如来像や、壮観な千手観世音菩薩、いかつい十二神将等の中で
この穏やかで、繊細な雰囲気の中の“弥勒菩薩像”が、
この場の中心として、何よりも堂々と、光輝いて見えることが不思議でもあり
これが、“ミロク(弥勒)の世”の、本当の意味なのかもしれない。。

菩薩とは、仏(如来)になるために修行中の身とされ、
それは、日常を頑張っている“人”の姿、そのものでもあるのだと思います
たくさんの苦しみや悲しみを経験し、尚、微笑を湛え
「一切衆生を救うために、どうすればいいか…」と考えている、愛の化身——
私にとっての“神人”の姿でもあります

ネット上には、ドイツの哲学者カール・ヤスパースの言葉として
「それは地上に於ける、すべての時間的なもの、束縛を超えて達し得た
人間の存在の、最も円満な、最も永遠な姿のシンボルであると思います。……

この仏像は、我々人間の持つ、心の永遠の平和の理想を
真に余すところなく、最高度に表徴しているものです。」との文面が紹介されていました^^
ヤスパースはそんなことを言っていない、とするものもありましたが、この言葉そのものが
弥勒菩薩からの、生きてある、美しいメッセージのようで、深い感動を覚えます

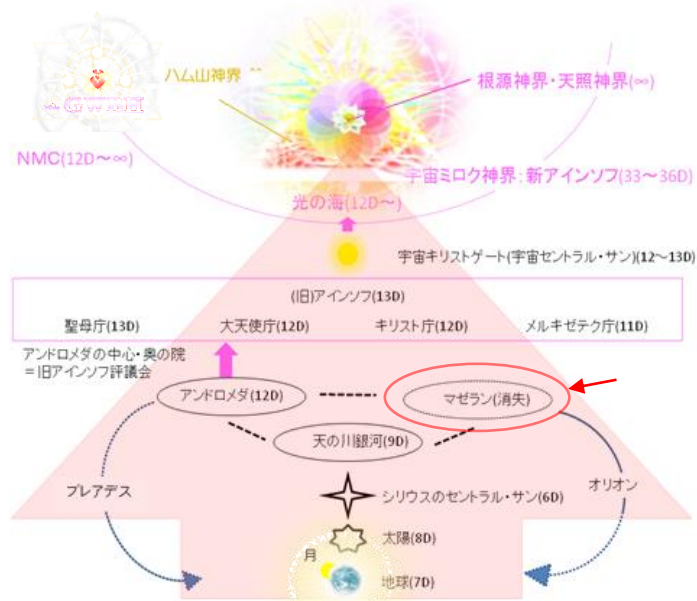
私達が目指す“弥勒の世”とは、
宇宙に存在する、あらゆる全ての力の根源である“愛”が、
一点の陰りなく、静かに、揺るぎなく、永遠に、全ての中心としてありつづける世界
なのではないでしょうか

“仏界”とは、宇宙を大きく三つにわけた、“神界”、“天界”、“人間界”のうちの“天界”であり、
西洋における天使等と同じように、神と人をつなぐ、神の使者とされます
「弥勒」は、「慈しみ」という意味の、サンスクリット語と言われ
何となく、仏界には“慈悲”という言葉が、神界には“慈愛”という言葉が、似合う気がします
同じ、“慈しみの心”であり、“愛”を表す言葉ですが、その違いは
“月”と“太陽”の輝きの違い = 愛のパワーの違いであるような感じがします
暗闇を照らす月(明り)の時代(悲)が終わり、燦然と輝く太陽の時代(愛)の到来です！^^
全てが、一なる根源(太陽)へと帰還する“根源へのアセンション”の中今
弥勒(ミロク)は、“仏界”を“神界”へとつなぐ、重要な働きを持つのではないのでしょうか？
“仏界”について考えていて、浮かんできたのが、“マゼラン銀河”です

マゼラン銀河は、(宇宙) 仏界の故郷と言われ

霊宝殿で観た異空間は、マゼラン銀河だったのかもしれない…と思えてきました?! ^^

言葉はよく知っている気がするのですが、実体はまるでわからない謎の銀河です

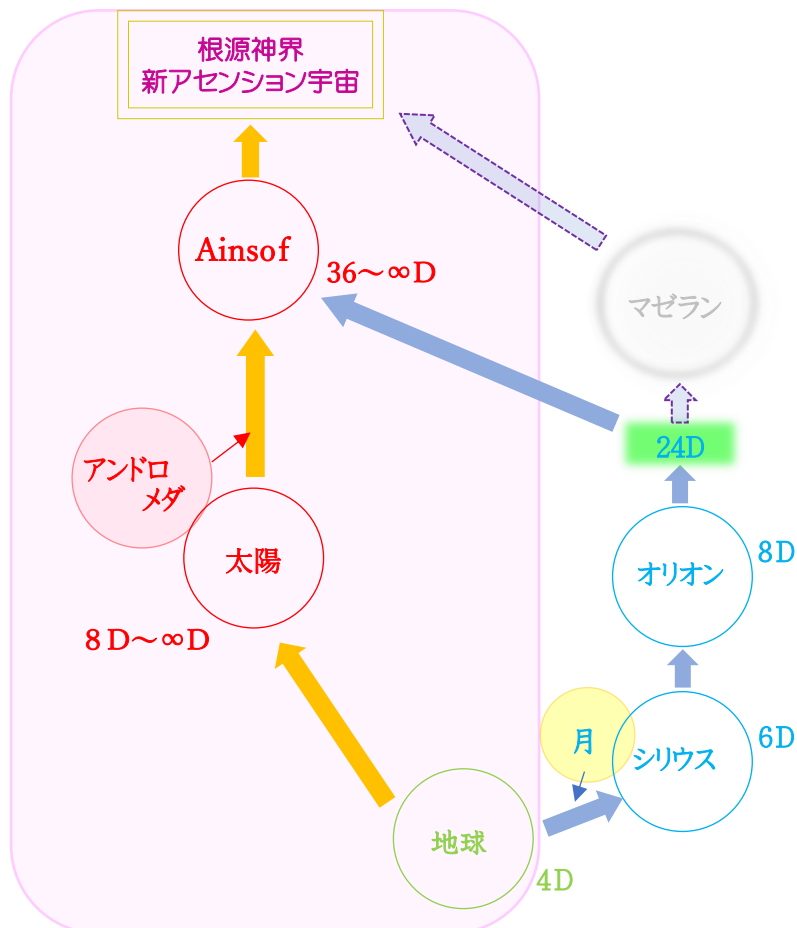


『(旧)宇宙MAP』にも、マゼラン銀河が記されています

(※上記は、『天の岩戸開き』の中に掲載されていたものを、自己の中今版として、アレンジしたものです)

上記が「旧」とされる意味と、マゼランが「消失」と記されている理由は、

Ai 先生著書の『根源の岩戸開き』にある、下記の図と説明がヒントとなります(一部追記)



右側のルートは、ここの(旧)宇宙と、とてもつながりが強いアセンション・ルートですが
中今は、左側の、最新！最短！の垂直上昇が可能であり、

元々の宇宙の計画でも、右側が下降ルート(旧)、

左側が、上昇＝アセンション・ルートとなっている、とのことです。(超シンプル版ですが…)

旧宇宙MAPは、私達が降りてきた(ディセンションしてきた)、過去の道程であり、

NMC(新アセンション宇宙)が存在する中今は、あまり詳細な点にフォーカスすることなく、

NMCの核心である“根源太陽”へと続く太陽道を、真っ直ぐに進むことによって、

そこにすべてが統合されていく、という事なのだと思います

24Dと記されているのは、単独の光線として存在できる(物質として存在する)限界の次元で、

ここの宇宙と地球の創始のエネルギー、生命、銀河の源のエネルギーとされます

アセンション情報の奥の院では、地球の衛星である“月”は、シリウスから来たと言われ、

2015年2月の重要な動きの中で、高次からもたらされた新しい情報として

我々が住む“太陽系の太陽”は、実は“アンドロメダ”から来た！との事です^^

“マゼラン銀河”に関するもの(右側のルート)の説明として、下記があります

「2月の重要なエネルギーワーク中に、これまでには無かった、

24Dの垂直の上に向かうエネルギーが、突然現れた！それは“マゼラン”だった！

このマゼランの、さらに垂直の上とは？！根源神界につながっていて

ここまでつながって初めて、左右両方のルートが、根源で一つになる」との事です

これは、創始以来、宇宙の大晦日(2015年2月、中今私達の見ている世界はホログラム)に、

初めて、一瞬だけつながった(最終なるが故に、明かされた)

明確には、金鷄きんしと呼ばれる、男性性エネルギーの、根源のルートであり

それによって、左右のルートが統合され、宇宙規模の巨大な柱となっていく——

そこから様々な動きがあり、地上セルフには想像もつかないスケールの出来事の連続！

宇宙はこのようにして、日々進化している事が、少しずつ理解できるようになりました

それは物凄いスピードで(時間はあつてない？時空の崩壊？)

昨日の事が、今日はもう時代遅れ…ほんとにそう感じる、今日この頃です^^

“マゼラン”に関する情報は、巷にほとんど無いとされ、興味深い、マル秘情報が下記です

◎潜在的に、ここの天の川銀河と関係が深く、歴史が古い銀河の一つである

◎すでに消滅していると言われるが、宇宙連合の、高次のマル秘のミッションを持っている

◎マゼランは、地球を含むここの銀河の、マル秘のツールの一つである

◎マル秘の情報では、アンドロメダとマゼランから、天の川銀河が生まれた！

すなわち、マゼランは天の川銀河の父、アンドロメダは母といえる。

ほ～？？(+o+)？？ ですが

宇宙連合の、高次のマル秘ミッションとは何でしょう？

マゼランは消滅したのではなく、人がマゼランを見失ってしまった(意識レベルの差)のであり、月(仏教)を通して、“弥勒菩薩”として、陰から人を支え導き、進化の時を待ち続けていた…

“弥勒下生”とは、救世主が私達の所へと降りてくるのではなく、

地上における、私達“人”(日戸、霊止)の、高度な意識の進化(アセンション)の事であり

弥勒が自身そのものであることに気づいた“神人の誕生！”と共に、

弥勒は、菩薩から、如来へと進化する——

それはイコール、マゼラン(仏界の源)が、根源(神界)へと、統合されていくことでもある

私には、このように感じられます^^

フォーカスしたものは、拡大するのであり、意識を向ける事からはじまるのではないのでしょうか

今回の自身のキーワード、“月”と“仏界”についての探求が深まり、

また、“マゼラン銀河”の謎にも、少し近づいた気がして

いつものように、先の事は、な～んもわかりませんが(笑)、ワクワク・エイエイオー！です！^^

広隆寺から、KTセミナー会場へ

KTとは、根源のカーちゃん、トーちゃん(冗談に聞こえますか？笑)のことであり

私達(あらゆるすべての人)は、その子供です

そこで起こること(動くエネルギー)は超莫大で、誰も想像がつかない。。。

地上と根源の間にある∞の高次が集う、リアルタイムのコ・クリエーションの場でもあり、

おそらく、KTにとってもそうなのではないでしょうか？

今回の、自身の一番大事！は、冒頭で述べさせていただきました^^

NMCの核心は、宇宙のあらゆる全てにとっての“究極の愛の源”・“愛の創造の源”であり

根源太陽母神である“根源天照皇太神”です

そしてそれは、私達地上セルフの中心にある、ハートと魂の輝き、そのものです^^

次は“京都御所”を經由して、“閑臥庵”へと向かいました

ネットで目にしただけの、まったく知らない場所で、(あまり関心がなかったで)すが。。。スミマセン

何故か、行ってる私です(笑)

《閑臥庵さんホームページより》

「閑臥庵」は山号を瑞芝山(ずいしざん)という、黄檗宗の禅寺でございます。

江戸時代前期には、後水尾法皇の実弟である、梶井常修院の宮の院邸でございましたが
王城鎮護の為に、貴船の奥の院から鎮宅靈符神(ちんたくれいふじん)を、この地に勧請し、

初代隠元禅師から六代目の、黄檗山萬福寺管長千呆(せんがい)禅師を招いて

1671年に開山したのが当寺の起こりであります。

閑臥庵に祀られている北辰鎮宅靈符神は、十千十二支九星を司る総守護神であり、

陰陽道最高の神とされています。その鎮宅靈符神は、平安時代の中ごろ

円融天皇が方除・厄除の靈神として、京都のうしとら(東北)にあたる貴船に祀ったもので、

天皇が陰陽師の安倍晴明に、付託開眼させたと伝えられる金剛象で、高さ四尺五寸の神像です。

雲一つない、見事な日本晴れ！^^ いつも、御所の空には、大宇宙を感じます



地上セルフは、根源の光を拡大する“根源太陽ポータル”である事を強く意識しながら

御所の正門、建礼門へと向かって、真つすぐに歩きました

建礼門の向こうには“紫宸殿”があり、さらに真北へ1.5km程の所にあるのが、閑臥庵です

この広大な御所の庭も、城も、目に映るものは、とても小さい…

天頂から感じるメッセージは、「何ものでもあり、何ものでもない——」、その∞の宝庫から

一人ひとりが感じた分だけが“神”であり、“宇宙”であり、“愛”なのだと思います

「閑臥庵に祀られている北辰鎮宅靈符神は、

十千十二支九星を司る総守護神であり、陰陽道最高の神」との説明があります

北辰とは、“北極星”の事であり、高天原に、一番最初にあらわれた

日本神話における天地開闢の神＝“天之御中主神”を象徴するものと言われます

御所は、日本の歴史の重要な舞台となった地であり、

高潔な武士道や日本神界は、北極星(天之御中主神)に導かれてきたのでは…

そんな事を感じました

閑臥庵の御本尊は“釈迦如来”ですが、通称「鎮宅さん」と呼ばれていて、

“鎮宅靈符神”を祀る、王城(御所)鎮護の寺院であるとの事です

また、普茶料理(精進料理)のお店でもあるようです^^

ここが?と思うような、ひっそりとした場所に、変わった風情の山門があり

右手には、不思議な? 白い羅漢像が何体も並んでいて(全部不思議、晴明さんボーイ? 笑)

その前を進んでいくと、正面に見えてきたのが、鎮宅堂です



菊の御紋に、なんだかホットしました^^

鎮宅靈符神は、中世から近世にかけて信仰された、謎の神と言われ

72種の鎮宅靈符(鎮宅…家宅の災禍を鎮める事、靈符…幸運を招く御札)道を中心として

仏教や神道、陰陽道などが集合された、特殊なものであったようです

私はこれまで、聞いたこともなかった神名で、どんな豪胆? 精悍? な神様なのか?

全く想像出来ませんでした、その第一印象は? という。。

予想外の、とてもふくよかで、ゆったりとした、母性を感じる、女神像に見えました?

そして、広隆寺との、面白いつながりを発見しました^^

閑臥庵を開山したのは、「黄檗山萬福寺管長千呆禅師」であり

黄檗山萬福寺は、都七福神の一つ、“布袋尊”を祀る寺として有名なのだそうです

そう言えば、鎮宅さんは、布袋さんによく似ている気がする。。

そしてなんと、“布袋尊”は、ジャ〜ン!“弥勒菩薩”でもありました!(パチパチ)

ここへは、広隆寺“聖徳太子”に導かれて来た?! のかもしれません^^

神の名前は、その働きを表すものでもあり、様々な働きが統合された、大きな存在ほど、

ちょっとピンとこない、想像し辛い名前となっていて
観る人によって、まったく違う側面(波動、レベル)となっていて、顕れるのかもしれませんが

私が、実際に鎮宅堂に来て感じた事から、先に記した
宇宙規模の男性性と女性性の柱、新旧宇宙MAPが浮かんできました

天之御中主神をイメージさせる“北辰鎮宅靈符神”は、
右側の旧ルートを象徴するものであるような気がします
金鷄と呼ばれる、男性性の“根源へのアセンション・ルート”で

旧世界の大晦日に、一瞬だけ現れた、

“天の川銀河の父”とされる“マゼラン銀河”を通して、根源へとつながるものでした
北極星は、北半球の空の中心にある星であり、マゼランは南極近くに見えることから

地球の北と南を結ぶ、重要な“地軸”が浮かびます

旧ルートは、地球の中心軸であり、大切なものであつたのではないのでしょうか？

マゼランの復活は、地球の元気にもつながっているのかもしれませんが^^

それとは対照的とも言える、布袋さんや、慈愛の弥勒菩薩を感じる“鎮宅さん”は
左側の、愛の太陽(私達のハートと魂)を中心とした、女性性のルート
宇宙創始からの計画であつた、中今最新の、“根源へのアセンション・ルート”です

私がこの閑臥庵に来た理由(聖徳太子の願い)は、

とても大きな二元性である“男性性”と“女性性”、“神界”と“仏界(天界)”の

全てが統合された世界を感じることであり、

地上における“真実”(アカシック)、とする事だつたのかもしれませんが



羅漢像をみた時、ワクワクする気持ちと同時に、「ここにいたのか？」という
私だけ私でない？ ような…言葉が浮かんだのですが、その意味が今、わかったような気がします
この羅漢像は、住宅街の中にある、普通の人々の姿であり、(動きまわり、話している感じ…)
どのお顔にも喜びが溢れ、愛と叡智の光に、美しく、白く、輝いています^^



羅漢とは、悟りを開いた高僧、修行者の到達し得る最高位であり、
如来にならんとする、菩薩でもあります
それはまさに、弥勒の世に生きる“神人”の姿ではないでしょうか？
「ここにいたのか」とは、「今この地上にいたのか」という、大きな宇宙存在としての私の
ここ地上セルフの中心から溢れ出した総意、感動だったのでは、と。。

あれ～、今回の始まりは、「光華明彩」と書かれた御札であり、鎮宅霊符です？！

全部つながっている事に、今気付きました！

(KTが、笑っている気がします)

一体、どうなってんの～、ニの宇宙？！ わからないけど、楽しい～～！！！！

p(*^^*)q

頭が混乱してきたので、次回に続きます(笑)

根源の究極の愛の絆の中で 2021. 2. 11(建国の日) 皇美(善美 rumines)